

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月7日実施)	総合評価(3月16日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、小中高一貫した、系統性のある教育課程の編成と、個別教育計画を活用した授業づくりを進める。	①学習指導要領に基づき、12年間の系統性のある教育課程を編成する。  ②学びの連続性と活用の視点で、個別教育計画の書式を見直す。	①校内研究を通して、児童生徒が学べきことを系統的に整理し、教育活動への活かし方を検討、実践していく。  ②書式の見直しの手順や原案をカリキュラムチームが示す。見直しや活用につながる先行事例などの研修を行う。	②「何を学ぶか」の視点で学習内容を整理し、教育活動に活かすことができたか。  ②個別教育計画の書式を見直し、さらなる活用に向けて準備ができたか。	①小中校の系統性が見やすい音楽・美術(図工)・体育について「身につけたい力」を段階ごとに整理したことで、系統性を意識した授業につながりつつある。  ②授業別記載欄や身につけたい力の明記等を主な改訂点として書式を見直し、さらなる活用への準備ができた。	①ねらいの整理を継続しながら授業に活かしていくことで、さらに系統性のある教育課程編成に取り組む。  ②活用の具体的な方策をさらに整理して、個別教育計画を活用した授業づくりを進める。	①保護者の高評価は75%だった。委員より教員の高評価53%との差について、さらに研究を推進し教員の高評価につながる系統性を示してほしいとの意見があった。  ②保護者は84%の高評価で新書式活用への期待の意見があった。委員からはキャリアパスポートも含め、保護者との協働が必要との意見があった。	①3教科のねらいを整理し教育活動に活かした。今後は、系統性の整理が課題である。  ②個別教育計画の書式を更新した。今後は、新書式の微調整と活用が課題である。	現在、各グループが担当している教育課程、年間指導計画、個別教育計画及びキャリア教育とキャリアパスポート、個々のニーズと生活年齢に考慮した指導・授業などを理論的、システム的、有機的につなげる工夫や業務分担の見直しが必要である。
2	(児童・生徒) 生徒指導 ・支援	・児童生徒一人ひとりの個性や人権を尊重し、教育的ニーズに応じた的確な支援・指導を全職員で組織的に実践する。	①担任と教育相談チームの連携をすすめ組織的に支援・指導を行う。  ②個々のニーズと生活年齢に考慮した学習内容を設定し実践する。	①児童生徒支援について担任と相談担当が共通理解を深められるツールをチーム会等で検討する。  ②「個々のニーズと生活年齢」の視点で教科等年間指導計画を立てる。授業計画時のポイントをまとめ全校で共有する。	①チーム会の検討を経て作成したツールが担任と相談担当の共通理解に役立ったか。  ②個々のニーズと生活年齢に考慮した学習を実践することができたか。	①「相談希望票」に担任の主訴を記載して、学年長や学部長を経由する体制をつくり、関係者間の共通理解の下、支援にあたることができつつある。  ②年間指導計画作成の留意点の共有等により、個々のニーズと生活年齢に考慮した学習を概ね実践できた	①担任への周知を徹底し、今後も教育的ニーズに応じた支援を行う。  ②教育的ニーズに応じた的確な支援方法のさらなる理解と共有、及び支援の継続を進める。	①委員から「相談希望票」について、個別教育計画を活用していけるとよい、また、保護者に学校の様子がわかりにくいので、工夫が望まれるなどの意見があった。  ②委員から高等部保護者の評価が他学部より低い様子について、合わせた教科の教科別のねらいを示し、身につけたい力として説明できるとよいとの意見があった。	①「相談希望票」の導入により担任と目的や進め方を共通理解して支援できた。今後は、級外から担任へ相談する双方向の支援が課題である。 ②個々のニーズと生活年齢に考慮した学習が実践できた。今後は、実践をPDCAサイクルする時間の確保が課題である。	また、進路学習の推進役や視覚支援の推進役を設定して取り組み、研究成果とともに上記の中に組み込んでいきたい。  そして、教育と支援の両輪をバランス良く実践していくために、校内の今、どこに、どのような支援が必要か、「相談希望票」からのニーズと相談チームのラウンドと総括教諭の広い視野を合わせていく必要がある。支援会議の設定や、企画会議の項目の1つに上げるなどの工夫が必要である。
3	進路指導 ・支援	・将来、児童生徒が地域社会で豊かに生きる力を育むために、ライフステージに沿った積極的な進路指導・支援を行う。	①「鶴見のキャリア教育」を共有・活用し教育活動に反映させる。  ②児童生徒が主体的に進路学習や進路決定に取り組めるよう工夫し実践する。	①掲示、配付などにより共有する。個別教育計画の書式見直しの視点とするなど、活用しやすい仕組みを作る。  ②担任と進路担当が連携して分かりやすい進路学習教材の開発をすすめる。	①「鶴見のキャリア教育」を教育活動に反映できたか。  ②児童生徒に分かりやすい進路学習教材を作製し実践できたか。	①教員間の共有は進んだ。教育活動に反映されつつある。  ②教員が分かりやすい教材を作製することで、児童生徒主体の進路学習を概ね進めることができた。	①地域社会で豊かに生きる力をさらに明確にして教育活動に取り組む。  ②今後も児童生徒主体の進路学習を目指し、教材の開発を進めていく。	①保護者の高評価は29%と低く、委員からは保護者への周知・広報をすすめてほしい、学校でのキャリアを放デイや卒業後に連携・移行させることで落ち着いて過ごしているとの、意見があった ②保護者の高評価は67%で、さらに個々に寄り添った指導や保護者間の交流による情報交換の必要性などの意見があった。委員からは学校の作業学習が将来的な就労につながっているか、との質問や身につけさせたい力と連携して取り組んでほしいなどの意見があった。	①キャリア教育を教育活動に反映できたことが成果であるが、今後は、反映の方法や成果の見える化が課題である。 ②自主教材の作成により、児童生徒主体の進路学習を進めることができた。今後は就労につながる授業作りをすすめ、学習教材を共有し活用していくことが課題である。	

4	地域等との協働	<p>・共生社会の実現に向け、障害のある児童生徒の理解を進めるため、地域と連携した教育活動を推進する。</p>	<p>①本校についての地域の理解をすすめる教育活動に活かす。</p> <p>②感染症対策と地域での学びの両立に向けて工夫し実践する。</p>	<p>①本校教育活動の地域への効果的な発信方法について、交流広報チームを中心に検討していく。</p> <p>②ビデオや遠隔授業などを活用し地域での学びを実践する。実践例を収集し、取り入れる。</p>	<p>①本校教育活動について様々な方法を組み合わせて効果的に情報発信をすることができたか。</p> <p>②感染症対策と地域での学びを両立できたか。</p>	<p>①学校へ行こう週間の実施、HPやTwitter等での発信、学校だよりの4町会への配付などの4町会への配付など、様々な方法で情報発信を行うことはできた。</p> <p>②地域での学びを次とおり実践できた。 [ゲストティーチャー（ビデオ1回、リモート1回）、近隣校外学習（屋内8回、屋外125回）、校外学習26回、遠足15回、宿泊学習4回、修学旅行4回]</p>	<p>①今後も教育活動の発信を続ける中で、地域の声を聞き、地域人材の活用等を進めていく。</p> <p>②ゲストティーチャー等地域と連携した教育活動をさらに進める。</p>	<p>①保護者の高評価は83%だったが、共生社会の実現にどれだけ効果があるのか知りたいなどの意見があった。委員からは「おおむねできた」の表現がわかりづらく具体的に示してほしい、発信し続けることが大切、できそうなことだけでなく、やりたいことを目標設定すると学校に活気がでるなどの意見があった。</p> <p>②保護者の高評価は88%で、推進または慎重、双方からの意見があった。委員からは、地域貢献の今後の方向性を示してほしい、後援会・学校運営委員会を活用してほしいなどの意見があった。</p>	<p>①学校だよりの4町会への配付により、発信方法が増え、より身近な地域に発信できた。今後は発信の継続と、地域と組みみたい教育活動を具体的に計画することが課題である。</p> <p>②感染を拡大させることなく地域での学びをすすめることができた。今後は、地域貢献の方向性を示し、地域との協働の方法を検討していくことが課題である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、広報的な発信に加えて、具体的な地域貢献や地域での教育活動を計画し年間指導計画に反映させていく必要がある。</p> <p>また、その様子を発信し続け、好循環としていきたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・児童生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備と、危機管理体制の確立を図り、地域に信頼される学校づくりに取り組む。</p> <p>・教員のワークライフバランスの観点から、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①防災対策をすすめる、安心・安全な教育環境を整備する。</p> <p>②会議設定を見直し、統一性ある学校組織と円滑な運営により働きやすい環境を整備する。</p>	<p>①既存の緊急時対応マニュアルの見直しと再整備を行い、学校全体の体制を強化する。</p> <p>②グループリーダー会とカリキュラムチームが連携し、円滑な運営とワークライフバランスの視点で会議設定を見直す。</p>	<p>①緊急時対応マニュアルの再整備等により防災対策がすすんだか。</p> <p>②会議設定の見直しにより働きやすい環境とできたか。</p>	<p>①学校危機管理マニュアルを整備することができた。また、その過程で新たな対策を導入することができた。</p> <p>②議案の検討手順を内容により整理し、併せて必要な会議が勤務時間内に実施できるよう設定した。（1月より実施。）</p>	<p>①マニュアルを全校に周知し、マニュアルを活用した実践的な緊急時訓練を行う。</p> <p>②会議設定の検証を今後していく。業務の精選や効率化にさらに取り組む。</p>	<p>①保護者の高評価は76%だった。委員からは、防災についても地域と学校の連携が必要で、そのためには日頃からの地域とのコミュニケーションが大切であるなどの意見があった。</p> <p>②委員から、難しいテーマであるが、業務精選・効率化に引続き取り組んでほしい、保護者の90%以上から「毎日通わせたい学校」との回答を得ていることに自信をもって取り組んでほしいなどの意見があった。</p>	<p>①マニュアルを整備し、防災対策をすすめた。今後は実践的な訓練や地域と共に取り組む防災が課題である。</p> <p>②小さな精選を積み重ね、勤務時間内の会議終了が進んだ。今後も、連続した書式の活用など、小さな改革をすすめていくことが課題である。</p>	<p>①マニュアルを活用し機動力のある防災体制とするために、様々な状況での訓練や地域との訓練を実施する。</p> <p>②「ちり積も大作戦」を銘打って、小さな改革案を募り、有効性の検証やタイムスケジュール、周知方法などの検討を組織的に取り組む。</p>